

# 2026年3月期 決算概要 補足説明資料

2026年5月12日



NIHON SEIKO CO.,LTD.

**日本精鋳株式会社**

証券コード：5729（東証スタンダード市場）

# 2025年度 連結決算概要

- \* 連結売上高: 前年比62.3%増収の40,866百万円 **引き続き、過去最高を更新**  
アンチモン地金価格は年間を通じて高値圏で推移したことなどから、アンチモン事業の売上高は過去最高を更新  
銀相場高騰により銀粉販売価格が上昇し、金属粉末事業についても売上高は過去最高を更新
- \* 連結各利益: **引き続き、過去最高を更新**  
営業利益は前年比69.0%増益の6,080百万円、当期純利益は同71.6%増益の4,214百万円

(単位: 百万円)

| 連結業績  | 2024年度実績 | 2025年度実績 | 増減      | 増減率    |
|-------|----------|----------|---------|--------|
| 売上高   | 25,179   | 40,866   | +15,687 | +62.3% |
| 営業利益  | 3,598    | 6,080    | +2,482  | +69.0% |
| 経常利益  | 3,531    | 6,025    | +2,494  | +70.6% |
| 当期純利益 | 2,456    | 4,214    | +1,758  | +71.6% |



# 2025年度実績 ①セグメント別決算概要

## アンチモン事業

|               | 2024年度実績 | 2025年度実績 | 増減率    |
|---------------|----------|----------|--------|
| 売上高 (百万円)     | 15,807   | 29,373   | +85.8% |
| セグメント利益 (百万円) | 3,059    | 5,391    | +76.2% |
| 販売数量 (トン)     | 4,541    | 3,962    | ▲12.8% |

- \* 売上高は前年比85.8%増収  
中国などからのOEM品の調達が困難となったため、中瀬製錬所で増産を行ったが、製造業全般が軟調に推移し、販売数量が減少  
アンチモン地金の通期平均価格は前年比約48%上昇したため、アンチモン製品の販売価格が上昇
- \* セグメント利益は前年比76.2%増益  
増収、生産効率の改善、在庫評価の影響などが作用

## 金属粉末事業

|               | 2024年度実績 | 2025年度実績 | 増減率    |
|---------------|----------|----------|--------|
| 売上高 (百万円)     | 9,336    | 11,453   | +22.7% |
| セグメント利益 (百万円) | 502      | 653      | +30.0% |
| 販売数量 (トン)     | 2,333    | 2,191    | ▲6.1%  |

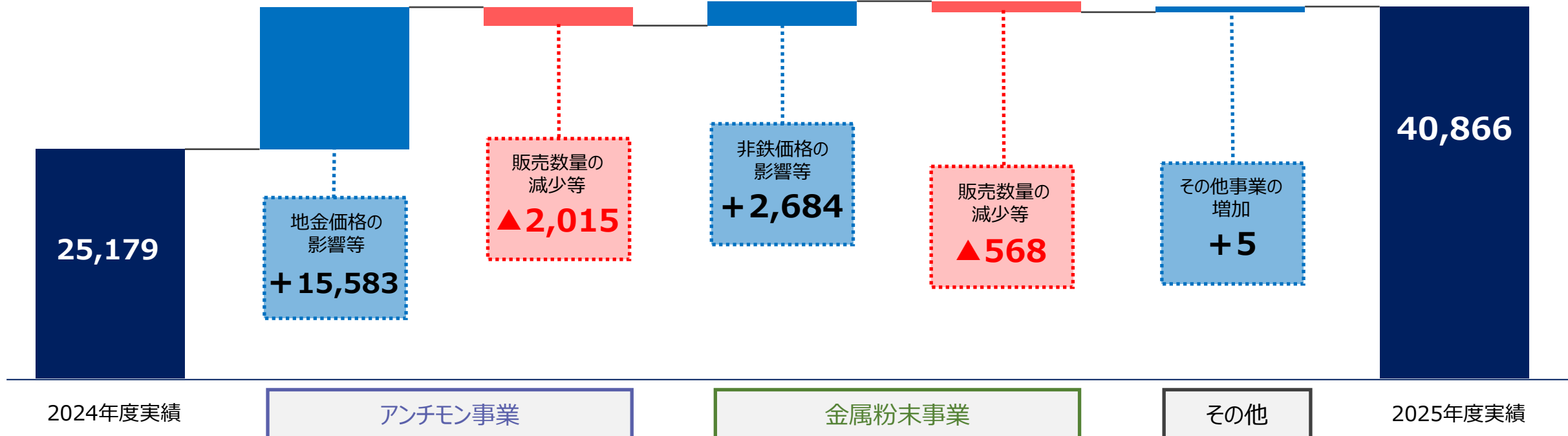
- \* 売上高は前年比22.7%増収  
電子部品向けについては、ローエンドのスマホや自動車関連市場向けでは競合が激しく、粉末冶金向けでも、自動車部品向けが低調で、販売数量は減少したが、銀相場高騰に伴う銀粉等の製品販売価格の上昇が寄与し、セグメント全体で増収を確保
- \* セグメント利益は前年比30.0%増益  
生産効率の改善、販売価格の上昇などが作用



# 2025年度実績 ②売上高の増減要因

- \* アンチモン事業： 製造業全般の生産が軟調に推移し、販売数量は減少したが、地金相場が高値圏で推移したことから、アンチモン製品の販売価格の上昇により大幅に増収
- \* 金属粉末事業： 販売数量は減少したが、高機能分野への販売や金属相場高騰に伴う販売価格の上昇により増収

(単位：百万円)

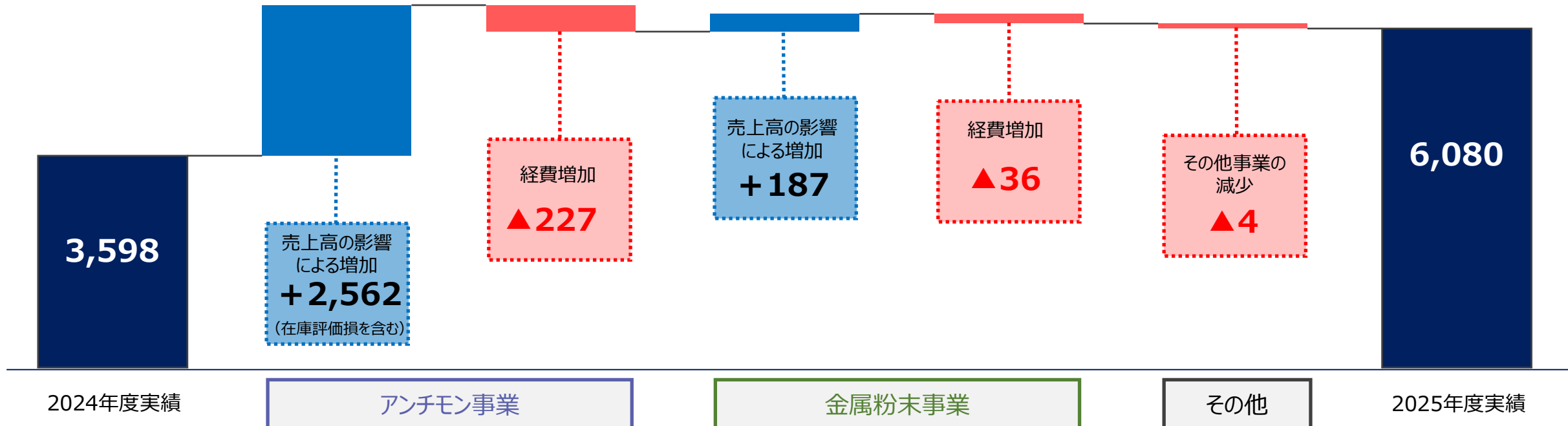




# 2025年度実績 ③営業利益の増減要因

- \* アンチモン事業：第2四半期以降地金相場が下落基調で推移したことから、第4四半期には在庫評価損が発生したが、在庫調整や生産効率改善により、前年比大幅増益
- \* 金属粉末事業：数量減を高機能分野への販売拡大や生産効率改善で補い前年比増益

(単位：百万円)



# 連結貸借対照表



NIHON SEIKO CO.,LTD.

日本精鋳株式会社

## 主な増減要因

### 流動資産

- ・ 現預金：+4,553百万円
- ・ 商品及び製品：+538百万円
- ・ 売上債権：▲1,773百万円
- ・ 原材料及び貯蔵品：▲481百万円

### 固定資産

- ・ 有形固定資産：+391百万円

### 負債

- ・ 短期借入金：▲1,722百万円
- ・ 未払法人税等：+191百万円
- ・ 支払手形及び買掛金：▲664百万円
- ・ 長期借入金：+496百万円

### 純資産

- ・ 利益剰余金：+3,455百万円

(単位：百万円)

|        | 2026年3月末 | 増減 (2025年3月末比) |           | 2026年3月末 | 増減 (2025年3月末比) |
|--------|----------|----------------|-----------|----------|----------------|
| 現預金    | 6,682    | +4,553         | 仕入債務      | 2,156    | ▲ 564          |
| 売上債権   | 3,335    | ▲ 1,773        | 有利子負債     | 2,465    | ▲ 1,225        |
| 棚卸資産   | 7,827    | +498           | その他流動負債   | 3,957    | +2,102         |
| その他    | 479      | +72            | その他固定負債   | 702      | ▲ 33           |
| 流動資産合計 | 18,324   | +3,352         | 負債合計      | 9,282    | +278           |
| 有形固定資産 | 5,672    | +391           | 資本金・資本剰余金 | 1,615    | +17            |
| 無形固定資産 | 117      | ▲ 19           | 利益剰余金     | 13,867   | +3,455         |
| 投資その他  | 614      | +67            | 自己株式      | ▲ 149    | 0              |
|        |          |                | 包括利益累計額   | 113      | +41            |
| 固定資産計  | 6,404    | +440           | 純資産合計     | 15,446   | +3,514         |
| 資産合計   | 24,729   | +3,792         | 負債・純資産合計  | 24,729   | +3,792         |



# 連結キャッシュ・フロー

## 主な増減要因

### 営業キャッシュ・フロー

- ・ 税金等調整前当期純利益：+6,020百万円
- ・ 減価償却費：+653百万円
- ・ 仕入債務の減少額：▲563百万円
- ・ 法人税等の支払額：▲1,648百万円
- ・ 棚卸資産の増加額：▲501百万円
- ・ 売上債権の減少額：+1,772百万円

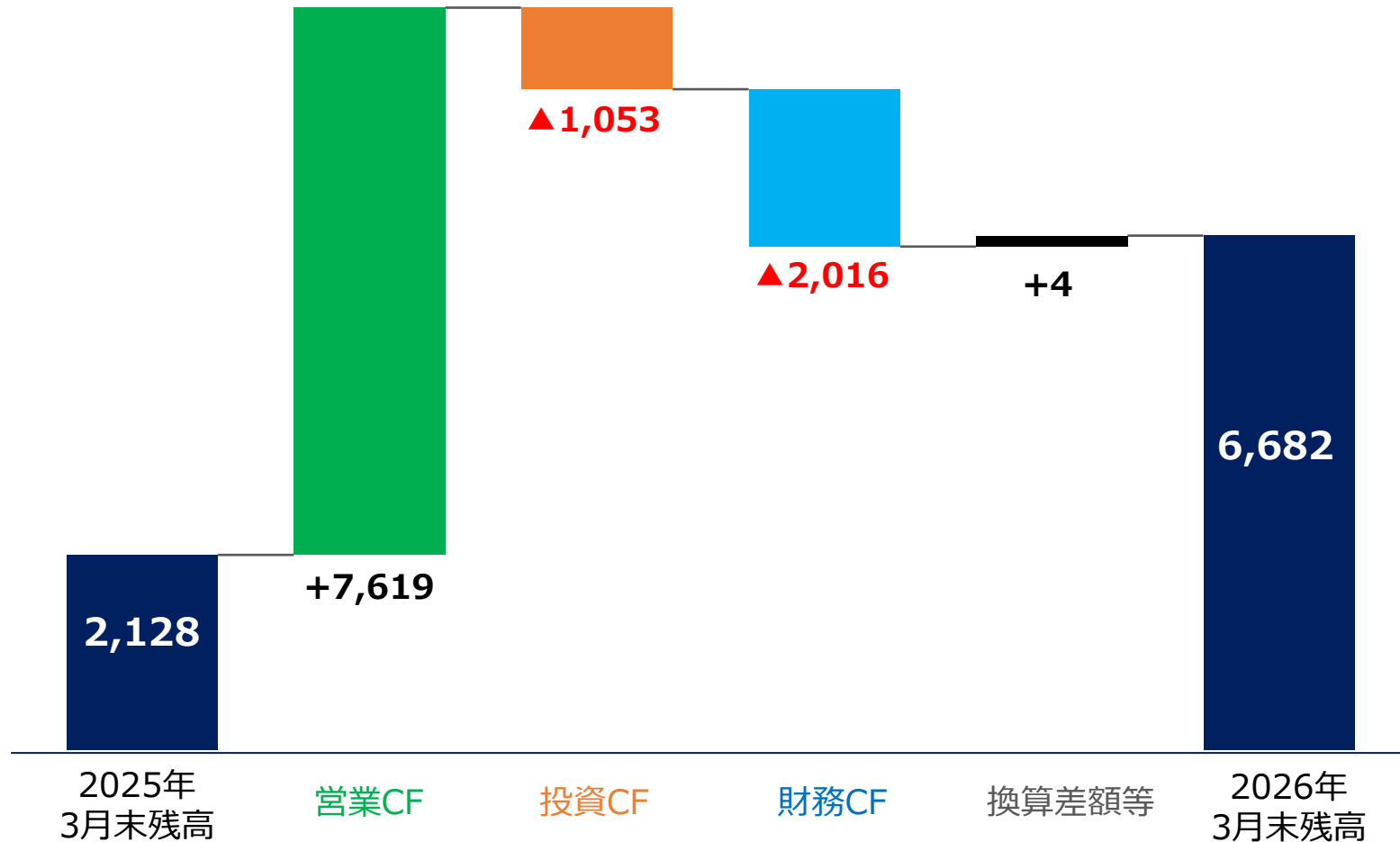
### 投資キャッシュ・フロー

- ・有形固定資産の取得による支出：▲1,044百万円

### 財務キャッシュ・フロー

- ・ 長期借入金による収入：+1,000百万円
- ・ 短期借入金の減少額：▲1,700百万円
- ・ 配当金の支払額：▲759百万円
- ・ 長期借入金の返済による支出：▲525百万円

(単位：百万円)



# 2026年度 連結業績予想



NIHON SEIKO CO.,LTD.

日本精鉱株式会社

- \* 連結売上高：前年比15.8%減収の34,400百万円  
アンチモン地金の前提条件をトン当たり24,000ドルと予想  
国内外の拡販を進めることで、販売数量の増加を見込む  
金属粉末事業はAIサーバー関連需要を取り込むことで、電子部品向け  
金属粉末の販売数量の増加を見込む
- \* 連結各利益：営業利益が前年比71.9%減益の1,710百万円、純利益は同73.4%減益の1,120百万円

(単位：百万円)

| 連結業績  | 2025年度実績 | 2026年度予想 | 増減      | 増減率    |
|-------|----------|----------|---------|--------|
| 売上高   | 40,866   | 34,400   | ▲ 6,466 | ▲15.8% |
| 営業利益  | 6,080    | 1,710    | ▲ 4,370 | ▲71.9% |
| 経常利益  | 6,025    | 1,670    | ▲ 4,355 | ▲72.3% |
| 当期純利益 | 4,214    | 1,120    | ▲ 3,094 | ▲73.4% |



# 2026年度予想 ①セグメント別業績予想

## アンチモン事業

|               | 2025年度実績 | 2026年度予想 | 増減率    |
|---------------|----------|----------|--------|
| 売上高 (百万円)     | 29,373   | 16,350   | ▲44.3% |
| セグメント利益 (百万円) | 5,391    | 910      | ▲83.1% |

- \* 売上高は前年比44.3%減収  
アンチモン地金予想価格は1トンあたり24,000ドル  
中国などからのOEM品の調達困難から国内生産体制を強化し、国内外向けに販売数量増加を図る
- \* セグメント利益は前年比83.1%減益  
上期は販売価格の低下と在庫の影響により大幅減益だが、下期に回復を見込む

## 金属粉末事業

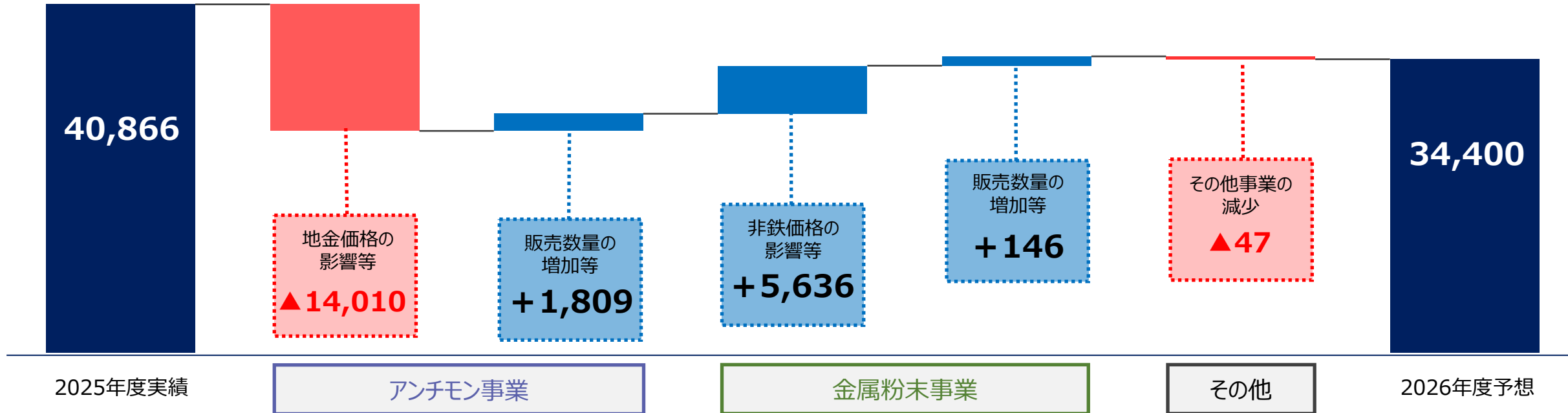
|               | 2025年度実績 | 2026年度予想 | 増減率    |
|---------------|----------|----------|--------|
| 売上高 (百万円)     | 11,453   | 17,234   | +50.5% |
| セグメント利益 (百万円) | 653      | 800      | +22.4% |

- \* 売上高は前年比50.5%増収  
銅建値予想価格はキログラムあたり2,130円  
AIサーバー関連需要の好調等により電子部品向け金属粉末の販売数量増加を図る
- \* セグメント利益は前年比22.4%増益  
販売数量増加や高付加価値分野への販売増加により、増益を見込む

# 2026年度予想 ②売上高増減要因

- \* アンチモン事業 : 地金相場の記録的な高騰が収束し、中国の輸出管理実施前の水準で推移することにより、アンチモン製品の販売価格は前年比下落し、売上高は減収を見込む
- \* 金属粉末事業 : AIサーバー・データセンター関連需要等の取り込みによる販売数量増加で増収を見込む

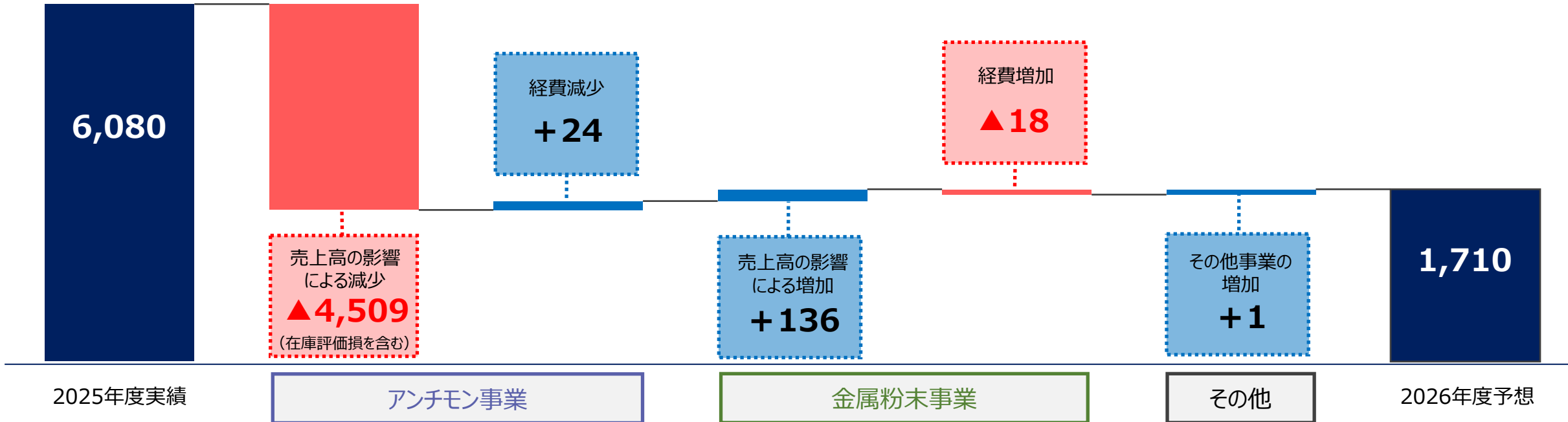
(単位 : 百万円)



# 2026年度予想 ③営業利益の増減要因

- \* アンチモン事業：アンチモン製品の価格が中国の輸出管理実施前の水準に落ち着き、需要が回復してくるが、前年に計上した在庫評価益の剥落により、前年比減益となる見通し
- \* 金属粉末事業：ハイエンドスマートフォンやAIサーバーなど高機能分野への販売拡大により、増益を見込む

(単位：百万円)



# 2026年度予想 ④前提条件

\* アンチモン地金価格は、中国による輸出管理実施前の水準に落ち着くと予想してトンあたり24,000ドルに設定

\* 銅の国内建値は、需給が引き締まり、高値圏で推移すると予想してキログラムあたり2,130円に設定

| 前提条件                 | 2025年度<br>実績 | 2026年度<br>前提条件 |
|----------------------|--------------|----------------|
| アンチモン地金 (US \$ / トン) | 46,820       | 24,000         |
| 銅 (円 / kg)           | 1,695        | 2,130          |
| 為替 (円 / ドル)          | 152          | 155            |

資本コストを上回る収益性を確保するために、成長戦略とともに株主還元・資本戦略を推進する

- ① 配当は年2回を基本とし、安定的、継続的に行う。連結配当性向の目安は平均 **30%** とする。
- ② 自己株式取得による、株主価値の増加の検討。

|              | 2024年度<br>実績 | 2025年度<br>実績 | 2026年度<br>予想 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 連結配当性向(%)    | 19.9         | 23.3         | 52.5         |
| 1株当たり配当金(円)※ | 50           | 100          | 60           |
| ROE(%)       | 22.7         | 30.8         | 7.1          |
| 株価(円)※       | 1,234        | 2,360        | —            |
| PBR(倍)       | 1.01         | 1.50         | —            |

※当社は、2026年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施いたしました。これに伴い、2024年度（2025年3月期）および2025年度（2026年3月期）の1株当たり配当金および株価については、当該株式分割が2024年度の期首に行われたと仮定して遡及修正（1/4に調整）した数値を記載しております。

## 長期ビジョンの設定

日本精鋳創立100周年となる2035年時点の「ありたい姿」を想定し、これを長期ビジョンとする。

### 基本理念

当社グループは、環境と安全そして成長を最重要課題と認識し、社会との共存を図り、より豊かで快適な生活環境を創るために必要な物づくりの一翼を担うことに誇りを持って、たゆむことなく挑み続けることを基本理念とします。

### 長期ビジョン

日本精鋳グループはモノづくりを通じて、挑戦し続ける企業集団を目指します。

1. 独自の技術と高付加価値にこだわり続け、グローバル展開に挑む
2. 人的資本を充実させ、一段高いハードルを目指す人財を育成する
3. 社会への貢献とサーキュラーエコノミーの実現に取り組む目標

### 財務目標

ROE **10%**以上

### 経営戦略



## 中期経営戦略（2025-2027年度）

## 第2の創生（創立100周年）に向けた基盤づくりのための挑戦と変革

### 基本方針

- 1 グループ連携の更なる強化
- 2 既存事業の競争力強化とグローバル展開への挑戦
- 3 最適な事業ポートフォリオの構築と新規事業の創出
- 4 人的資本の充実とESGへの取り組み

### 連結財務目標（2027年度）

営業利益  
3年間平均 **30** 億円以上

ROE  
3年間平均 **10** %以上

## アンチモン事業

中瀬製錬所は、カーボンニュートラルへの貢献を目的とし、三酸化アンチモン製造工程の改良を計画しています。燃烧炉を電熱炉へ転換し、CO2排出量と消費電力を大幅に削減する内容で、2027年度に完了予定です。本計画に対し、国の「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」の交付が決定しました。今後も、サステナブルな事業展開を一層推進し、社会貢献を目指します。



## 金属粉末事業

日本アトマイズ加工株式会社つくば工場に、新たな事務所棟を建設します。竣工は2026年9月の予定で、省エネ性能の高い「ZEB Ready」認証の取得を目指します。また、新事務所は、従業員の働きやすさや多様性にも配慮した設計が特徴です。働きやすい環境の整備、環境への責任ある取り組みを通じて、持続的成長と企業価値の一層の向上を図ってまいります。



## 将来予測について

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。



NIHON SEIKO CO.,LTD.

日本精鋳株式会社